

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2019~2020年度 No.240

1 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間：IBC/DBC

今月の聖句

神は真実な方です。この神よって、あなた方は神の子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

Iコリント1:9

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

「より良い明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

「Action!」

東日本区理事：(RD) 山田 敏明(十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動!」

北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

・1月(新年)第1例会

日時：1月24日(金)午後6時~

場所：金の食彩 那須塩原市緑2-1293-5

内容：1月新年例会(1年の抱負を語ろう)

司会：田村 修也副会長

開会点鐘 会長 河野 順子

会長挨拶 会長 河野 順子

ワイズソング斉唱 一同

ワイズの信条の斉唱 一同

聖書朗読・祈禱 司会者

ゲスト・ビジターの紹介

食前の祈り 田村 暁美メネット

会食

「今年度の抱負を大いに語ろう」

YMCA報告

ワイズ報告

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

会費：メン・メネット 3,500円

ユースリーダー 2,000円

人数の確認は、1月20日(月)までに河野会長まで

TEL 0287(22)5380 携帯 090(1997)2077

場所の詳細は末ページ地図がありますのでご確認ください。

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

12月例会データ(出席率：83.3%)

在籍者 6名 例会出席者4名 メネット2名

Yスタッフ1名 ゲスト(北東部長1名、リーダー10名、養徳園11名、その他15名) メーキャップ1名

1月 Happy Birthday

1/7 藤生 容子メネット

1/14 藤生 強メン

1/15 田村 暁美メネット

・2月第2例会(役員会)

日時：2月3日(月)午後12時30分から

場所：ココス西那須野乃木店

・2月第1例会(ユースリーダー報告)

日時：2月21日(金)午後6時30分~

場所：日本キリスト教団西那須野協会

会費：1,000円

1月巻頭言

会長 河野 順子

年末の出来事

図らずも、12月中旬から体調を崩し、入院までした突然の出来事に戸惑ってしまった。

思えば、12月に入って間もなく、神奈川県で子育てをしながら、仕事をしている娘の応援に行ったことから始まる。1歳になる孫娘が、喘息と胃腸炎を起しなかなか元気になれず、娘も正職員として働いているのに、職場に申し訳ないほど休みを頂いている。それも1年間の育児休暇から復帰したばかりであると言うことで、孫の体調は経験豊富なおばあちゃんの出番と張り切って応援に行ったものだ。孫の父親は交替制勤務であり、彼も一生懸命に孫を看ているが、私から言わせれば小児の胃腸炎の看病にはなっていない。小児の胃腸炎はこどもは腹痛と空腹で泣くが、親は我慢して子どもの欲求に負けてはダメなのだが、子どもが泣けば食べ物を与えてしまう。

「慎重に・慎重に」が大切。便の性状と回数が判断資料。嘔吐がなければ、口からの摂取で可能だが、与えるものの選択が肝要。孫娘の父親は固形物を与えていたので、私が訪ねた時は、孫娘の病状は振り出しへ戻っていた。おむつを替える度に下痢便。孫娘の両親には仕事に出てもらい、ここから私の腕の見せどころ。まず、白湯(30ML)。1時間空けて白湯を50ML。嘔吐のないことを確認してこれを数回。翌日は、重湯。少しの塩を加えて子どもの茶碗半分くらい。まだ、おむつ交換する度に下痢。重湯と白湯を交互に。次は、食事補助ミルク(というのがある)を規定の濃度の3分の1に薄める。これをはじめは100ML。1歳2ヶ月の子どもでは、空腹過ぎる。ここが我慢である。これを一日続ければ、便は下痢が泥状便となり、回数が減る。翌日は、このミルクを二分の一にし、量を150MLとして、2時間間隔にする。翌日は、粥(3分粥から5分粥)。これに塩を少し。孫娘のおなかも少し満足。便の回数も減り、下痢は落ち着いた便になってくる。この時、味噌汁の上澄みを併せて与えると、喜ぶ。ミルクは、三分の二乳で量は200ML可能。

おおよそ、5日~6日で胃腸炎は落ち着く。それでも、ここから3日~5日間は、消化のよいもので油ものや肉類は避ける。ここで漸くミルクは全乳とする。量は150ML。乳幼児の胃腸炎やノロウイルスなど消化器系は慎重でなければ、経口摂取で済まず、輸液を頼らざるを得なくなる。

この間、孫娘の喘息については、おんぶをして小児科に吸入に通った。それでも、夜中に夜泣きで母親を困らせているのを見てると、もっと応援したい思いがあったが14日には、ワイズのクリスマス例会があるので帰宅した。14日は、喉が痛い、クリスマスソングを一生懸命歌った。北東部長が訪問されていて、素晴らしいハーモニーを奏でて下さったので夢中で歌った。翌日から起きられない。ここから肺炎が始まったらしい。肺炎闘病記は、次回に報告したい。

孫娘は、元気になったそうで、これからのいのちと老いていくいのちを考えさせられた。



12月例会(クリスマスキャンドルサービス・祝会)2019.12.14

12月例会(クリスマス賛美礼拝・祝会、 北東部部長公式訪問)

書記 藤生 強

日時: 2019年12月14日(土)午後6時~

場所: 日本キリスト教団 西那須野協会

参加者: 河野、田村、藤生、村田各メン。YMCA
スタッフ1名(平山主事)。ゲスト・北東部部長、
ユースリーダー10名、養徳園11名、他15名。

恒例のクリスマス例会を、日本キリスト教団西那
須野教会をお借りして行いました。

毎年招待をしている養徳園の子ども達と先生方、
那須YMCAユースボランティアリーダー達、会場
をお借りした西那須野教会会員の方々、そしてワイ
ズ北東部鈴木伊知郎部長などたくさんのゲストを迎
え、メンとメネットを合わせると40名程が出席を
し、楽しく賑やかに行われました。

初めは教会の礼拝堂を会場に、「例会開会」と「第
1部キャンドルサービス」が行われました。

「例会開会」はいつもの様に開会点鐘、ワイズソ
ングと続き、会長あいさつではキリスト降誕の聖書
を朗読してクリスマスの感謝を伝えました。



「第1部キャンドルサービス」は、礼拝堂のパイ
プオルガンの音色に包まれながら、キャンドルに点
火をして始まりました。讃美歌をキャンドルの幻想
的な灯りの中で歌い、そして西那須野教会潘牧師か
ら『神様はイエスという光を私たちにお与えになっ
た』『心にイエスという光をもっていれば、たとえ
暗い(辛い)道の中でも歩むことが出来る』という
クリスマスメッセージを頂きました。パイプオルガ
ンで奏でられた後奏を聞きながら、クリスマスを迎
える幸せを感じることが出来ました。



会場を教会の集会室に変
えて、「第2部クリスマス
祝会」を行いました。大き
なテーブルの上にたくさん
の料理が並び、美味しく頂
き、仲間との団らんを楽し
みました。クリスマス讃美
歌を歌ったり、ボランティ
アリーダー達が中心となっ
て楽しいゲームを行なっ
たり、賑やかに祝会が行
われました。

多くの出席者と共にクリスマスを祝うことが出来
た素敵なクリスマス例会となりました。

最後に説教をいただきました潘牧師、美しい音色
のパイプオルガンの演奏をいただいた木村真紀子姉、
ディナーの準備をいただいた田村有希子姉に感謝申
し上げます。

皆様からの席上献金5,000円は、栃木YMC
Aの被災者支援活動募金に捧げました。

1月第2例会(役員会)報告

日時: 1月6日(月)午後12時30分~

場所: ココス西那須野乃木店

出席者: 田村副会長、村田副会長、藤生書記、田村
メネット

協議事項

1. 12月例会(クリスマス会)の反省

北東部部長の公式訪問。養徳園の方々の参加。い
ろんな方々の参加がありよかった。リーダーの参加
の参加が多く、ゲーム指導がありよかった。平山主
事とリーダーの関係はうかがえる。リーダーたち
にとっては、教会の雰囲気味わえてよかった。

2. 1月例会の件

1月24日(金)午後6時より、那須塩原市緑の「金
の食彩」で新年例会行う。会費は、3500円。ユ
ースリーダーの参加は、会費2,000円とし、1,
500円はワイズが負担をする。内容は、新年の抱
負を語る。申し込みは、1月20日(月)までに河
野会長まで。地図は、8ページに記載

3. 2月例会の件

ユースリーダーの報告会とする。日程は、2月21
日(金)午後6時30分から、日本キリスト教団西
那須野教会で行う。

4. 2月役員会の件

2月3日(月)午後12時30分よりココス西那須
野乃木店で行う。

5. 3月例会の件

地域奉仕講演会とする。河野順子会長に講師をして
いただき、日程、時間、場所、演題、内容等の詳細
については、2月役員会で決定する。チラシとポス
ターを作成し多くの方々に呼び掛ける。

5. その他

- ・シイタケ昆布の購入は、130個で、1月例会日
に分配する。
- ・次年度の役員は、今年度と変更なしで、次期北東
部書記に連絡する。
- ・4月の植樹例会は、4月25日を第1候補として

塩那森林管理署と調整を行う。

7 会員消息

・原田時近会員・河野従子会長は、自宅療養中である。

・鈴木保江会員のコメント（長男聖也君）は、作新学園高等学校にめでたく合格。おめでとうございます。これからの活躍を期待します。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第82回）

田村修也

那須疎水本支流修繕費御補助之儀ニ付歎願

那須東西両原灌漑用疎水工事之儀、愈竣工相成、不日土木局御出張所等、悉皆御引揚ニモ可相成哉ノ趣伝承仕候。就テハ、該水路ハ、自然当水組へ御渡ニ可相成儀ト奉恐察候得共、此事業タルヤ、実ニ一大工事ニシテ、至難ノ場所多ク、加之、那珂川ハ当国無比ノ激流ニシテ、夏季ハ別シテ不時防漲致シ、不測ノ大害ヲ蒙リ候例モ不尠、水路幹支線トモ向フ三、五年間ハ、沍寒冰雪夏気暴風等ノ為メ、破損意想外ニ出テ候ハ、既往ノ実験ニ依リ昭々タル儀ニ有之候ニ、其一切ヲ負担可仕各開拓人ノ景況ハ、世上一般ノ不融通ニ際シ、一層ノ困難ヲ加ヘ、日々支出可致用度金ヲモ相支払兼候上、農産物ハ非常ニ下落シテ、收支不相償、年々多額ノ損失ニテ、各農場共維持ニ困却罷在候仕合、且ツ水田相開候テモ、素ヨリ瘦薄の地故、容易ニ熟田トハ難相成、其收穫モ果シテ多カラズ、三、五年ニシテ開拓費ノ幾分ヲモ、消却不相成ハ必定、去此儘経過致候時ハ、各自ノ精神ニ相戻リ候ノミナラズ、前途ノ目的モ不相立候間、愈々益々拮据勉強、数年ヲ出ズシテ、両原ノ面目ヲ相改、御国恩ノ万一二奉報度赤心ニテ、已ニ此程モ、一同水路ノ実地に就キ尚勘査候処、完全ナル御工事ニハ候得共、開鑿竣功之當時ト、流水後目下ノ景況ト比較仕候ても、多少ノ破損モ有之、最早修繕相加フベキ場所モ相見ヘ、旁以テ甚ダ心配ノ余リ、彼是塾考ノ末、果シテ向五家ヶ年ニ要スベキ経費見込ハ、別紙概算書ノ通ニ有之、実に可驚巨額ノ上、自今各自水田開墾費、数条ノ小水路開鑿等ノ経費モ、多分ニ有之、微力ノ各開拓人、昨今移住ノ窮民共ノ、負担可被致金額ニ無之、然レドモ、等閑ニ付シ置候時ハ、小破ハ益々大破ニ相成、如何共致方無之様相成候テハ、両原ノ命脈断絶致、年来ノ丹精モ水泡ニ属シ、数百ノ移民ハ、亦離散シ、路頭ニ迷候ハ眼前ト、深く嘆ケ歎奉存候。

何卒前頭ノ事実、御憐察被成下置、特別ノ御詮議ヲ以、別冊予算ノ金額、御補助被成下置候様仕度、此

段只管奉歎願候也。

明治19年7月27日

那須東西原水組惣代

田上貞質

矢板武

印南文作

戸長 田上貞質

栃木県知事 樺山資雄殿

余談になりますが、日本における最初のセメント工場は、明治維新後の産業革命の中で、官営事業の一つとして始められています。製紙工場は群馬県の富岡製紙工場、製鉄工場は九州の八幡製鉄所、それに続いてセメント工場は川崎市の扇島工場です。

1880年には、それぞれ民間に払い下げになっています。富岡製紙工場と八幡製鉄所は原型が残っているようですが、扇島は残念ながら当時の原型はないそうです。

1880年は明治13年ですから、民間払下になったばかりの現状からして、那須疎水の水路工事にコンクリートを使用するという事はどうも考えられなかったことでしょう。私は林学科の森林工学専攻でしたので、栃木県職員に採用されて、森林に林道を設計施工する仕事に従事していました。

1963年のことです。当時橋梁や石積等のコンクリート工事をするために使用するセメントは、コンクリート数量を計算して、設計配合に従って必要セメント袋数を算出して注文しました。当時は一般ではなかなか購入は困難な超貴重なもので、1袋が50kg入りで厳重に管理されていました。高価なものだったので、民間に横流しされることがしばしばありました。県で一括購入して、施工に必要なセメントは官給品と言われ袋に赤帯、青帯が印刷されていて、直轄事業で使用する物と、請負業者に支給する物と区別されていました。鉄道の貨車で駅の貨物構内に届けられて、入荷すると電話連絡が入り、駅に出向いて現場ごとにセメント袋数を検査確認して、業者に手渡していました。セメント袋は特殊な紙で二重になっていましたが、運搬中や積み下ろしで破れる物が多々ありました。それも何袋と記録して、追加注文を取って、工事に差し支えないようにしていました。コンクリート工事は設計額に占める割合が大きいので、予算の制約があるため、設計ではどうしても必要な管渠や橋梁の前後、高い盛土や切土の法長の名阿木部分の土留ぐらいにしか設計で採用しませんでした。セメントは昭和38年代でもそのように貴重なものでした。ましてや明治10年代では、その存在はたとえ知られていたとして

も、到底使用できるものではなかったでしょう。那須疎水もコンクリートの3面張りになったのは、昭和48年東北新幹線建設工事が始まった頃からでした。

那須疎水完成後、通水してからの維持管理の大変さが迫ってくる歎願書です。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

「平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる」

(聖書 マタイによる福音書 5:9)

昨年は保護者の皆様には大変お世話になりありがとうございました。本年も子ども達の健やかな成長の為にスタッフ一同努力しますので、宜しく願い申し上げます。

新年早々、アメリカとイランの問題が放映されました。私は、1989年アメリカとソ連の冷戦のもと、東西ドイツのベルリンの壁も崩壊し平和な世界になると期待したことを思い出しました。しかし、そのドイツもヒトラー時代を待望するかようなグループも台頭してきたことが報道されています。「格差」、「混沌」、そして「分断」ということばが飛び交う世界になりました。全ての人々が、食べることに困らなく、人権が大切にされ、努力によって夢が叶う世界になればとよいという私の願いとは裏腹に、歴史は繰り返すということばのように、進化ではなく、退行しているように思えてなりません。ユートピアではなくディストピアに向かっているのでしょうか。

冒頭の聖書のことばには、平和を実現する人は幸いと記されています。ただ単に平和が好きで人も、平和を愛する人でもありません。この平和を実現する人です。私は平和の為に身近な一歩踏み出すことかと思えます。

年末に高学年の学童クラブの子どもたちは、東京で路上生活を余儀なくされている人達を支援する団体にお米を送りました。年末年始は路上生活を余儀なくされている人にはとても大変な期間だからです。運送屋さんで、車から私がやっと下ろした重い米袋を1人で持ち上げて運ぶ高学年の女の子の姿に圧倒されましたが、同時に日本の未来は安心と思えました。子どもたちは、自分で出来る平和を実現しているからです。

子どもたちから学ぶことは沢山あります。子育て

を楽しむ1年のスタートです。

(しらゆり 2020.1.7号より)

アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川朋子

卒業式 式辞

連日報道されていますように、アフガニスタンの乾燥地帯で30年以上に亘り医療活動と用水路建設を続け、60万人以上の人々の生活を劇的に向上させることに貢献をしてきたペシャワール会の代表、中村哲医師が現地で何者かに襲撃されて亡くなりました。実はアジア学院の日本人卒業生の中に一人、そして元職員の中にもひとり、ペシャワール会で現地スタッフとして中村医師と共に働いていた者がいます。彼らを通じてペシャワール会の現地の活動を少しだけですが知る者として、私は今回の中村医師の死に関する様々な報道に接し、思いを巡らせました。中村医師は1980年代にパキスタンとアフガニスタンで医療活動を始め、その後水不足が多く、病気や難民の原因になっているとして、2003年から白衣を作業服に着替え、自らショベルカーを操作し、アフガニスタンの干ばつに苦しむ地域に用水路を引く「緑の大地計画」に現地スタッフと村人と共に着手します。それから16年間、コツコツと用水路建設を進め、これまでに1万6000haの潤れた大地が緑の耕作地に生まれ変わり、60万人以上が恩恵にあずかりました。国内では数々の賞を受賞し多くの人の尊敬を集め、去年はアフガニスタン大統領から名誉市民権を与えられました。

中村医師の「緑の大地計画」にかける思いにはなみなみなならぬものがありました。しかし国家プロジェクトにも匹敵するような壮大なプロジェクトを中村医師を中心とする小さなNGOが進めることには多くの人々が不安を覚えたことと思います。中には夢物語か冗談だと笑った人もいるでしょう。しかし彼は「水は命。100の診療所よりも1本の用水路。命を救うためには建設は一日でも早いほうがいい。」と繰り返し人々を説得します。そして「無謀な計画だなんて恥じることはない。」と人々を鼓舞します。

この時の彼の強い意志を蓄えた鋭い眼光をテレビ越しに見ながら、私は卒業生の皆さんのことを思いました。皆さんが先日発表した「夢」には、地域の人々の命を第一に考え、地域での健康で安全な食べもの作りが目標に掲げられていました。さらに底辺の人々の声なき声に耳を傾け、本当に人々が必要と

することを理解し地域全体の生活向上を目指す道筋が描かれていました。その中には、人々が出稼ぎに行かなくても自分たちの村で自分たちの力で食べていけるよう、地域にすでにある「眠れる」資源を活用し、経済的、心理的な依存体質から脱却を図り、自立を促すことを目指すものもありました。皆さんの夢が夢で終わらないように、地域の人々の理解を得ることを含む周到な準備と計画が必要だと思えますが、同時に前人未到のアイデアだからと恐れて、歩みが鈍ることがないように祈ります。中村医師の言うように、命を最優先にした計画を恥じることは全くないのです。中村医師のような強い意志の炎が皆さんと私たちの心にも燃やされ続けることを神様に祈っていきたいと思います。

さて、ここまでを書いたところで、中村医師が殺害される2日前、つまり12月2日に九州の西日本新聞に掲載された彼の現地からのレポートが私の友人からメールで転送されてきました。これが中村医師のアフガニスタンから送られた最後のレポート、つまり絶筆になったわけですが、これが私の心に強く焼き付けられました。中村医師は最終段階に入った「緑の大地計画」を遂行するために、10月に対象地域の中でも最も孤立した村に入っていました。伝統を重んじる村の指導者や家長たちに計画について説明し理解を得るためです。中村医師たちはこの会議に緊張して慎重に臨んだことと思いますが、そこで保守的で伝統を重んじる指導者から意外にも、「専門家の諸君にお任せします。諸君の誠実を信じます。お迎えできたことだけで、村はうれしいのです。」という言葉を受け、心が温まったと書いています。なぜ心が温まったのか。それは開発から取り残され、世界の辺境とも言われるアフガニスタンでさえ、都市部は他の国の都市と変わらぬような近代化を遂げていて、人々の心も徐々に変わっていき、このような言葉はもはや聞かれなくなっていたからだと感じます。中村医師はこう言います。「近代化と民主化はしばしば同義である。巨大都市カブールでは、上流層の間で東京やロンドンとさして変わらぬファッションが流行する。見たこともない交通ラッシュ、霞（かすみ）のように街路を覆う排ガス。人権は叫ばれても、街路にうずくまる行倒れや流民たちへの温かい視線は薄れた。泡立つカブール川の汚濁はもはや川とは言えず、両岸はプラスチックごみが堆積する。」干ばつの苦しみから水の恩恵を得て狂喜した人々でさえ、今や水の利権で争い合っている人もいるといいます。そのことに対し、「国土を省みぬ無責任な主張、華やかな消費

生活への憧れ、終わりのない内戦、襲いかかる温暖化による干ばつ — 終末的な世相の中で、アフガニスタンは何を啓示するのか。」と中村医師は問うています。そのような中で、先ほど言った誰も顧みない孤立した保守的な村で、「神と人を信じることでしか、この厳しい世界を生きられない」人々に出会い、「諸君の誠実を信じます。お迎えできたことだけで、村はうれしいのです。」という言葉をもたらすのです。そして中村医師は最後にこう言います。「見捨てられた小世界で心温まる絆を見いだす意味を問い、近代化のさらに彼方（かなた）を見つめる。」この言葉がぐっと私の胸に突き刺さりました。アジア学院も同じ問いをずっと問い続けていると思えました。そして皆さんも今年私たちと共にそれを問い続けたと思います。アジア学院に来た時には、皆さんは近代化が、すべてではないとしても多くの問題を解決してくれると思っていたかもしれません。しかし皆さんは日本で近代化が生み出すものの弱さ、もろさ、そして悪をしっかりと目撃したはずで、だからこそ皆さんの夢は、多くの世界が目指す近代化や個人主義とは違うものになりました。皆さんはちゃんと、すでに近代化のその向こうのかなたを見つめ、一部の恵まれた層だけが潤うのではない、コミュニティの皆がともに幸福になれる社会を思い描いています。そしてそこには健康で安全な食べものとそれを生み出す農業が基盤としてあり、ひとりひとりの声を真摯に聴くサーバントリーダー像がしっかりとあります。今日の聖句（イザヤ書48章18節わたしの戒めに耳を傾けるなら あなたの平和は大河のように 恵みは海の波のようになる。）が言うように、真の平和は、個人の小さな世界にとどまるものとは比べものにならないものです。大河のようになみなみと流れ、周囲を潤し、輝く緑で埋めつくすものでないならないのです。私は皆さんの描いた夢は、このような真の平和をもたらすものだと思っています。

アジア学院は皆さんの夢を心から誇りに思うし、それがかなえられることを心から祈っています。神様のご加護が皆さんの未来の歩みの中に常に豊かにありますように。

YMCAだより

【とちぎYMCA 12月の3Daysスクール・ウィンターキャンプが無事に終了しました！】

12月下旬にありました、雪遊びキャンプ・3Daysスクール・スキーキャンプが予定通り実施され無事

に終了いたしました。今年は暖冬の影響もあり雪の少なさが心配されていましたがスキーレッスンに影響が無いほど無事にゲレンデがオープンし、思う存分滑ることができました。

2年ぶりに開催された雪遊びキャンプは少ない参加者ならではのアットホームな活動になりました。雪は少なかったですがそり遊びや雪だるま作りなどそれぞれが雪遊びの楽しさを味わっていました。

3Daysスクールでは野外炊飯でクリームシチュー作りやカレンダー作りなど普段は出来ないことを子どもたちも楽しんでいる姿が見られました。

また、1月・2月にも日帰りスキープログラムやスキーキャンプに向けて準備が進められています。子どもたちはプログラムの中で有意義な時間を過ごし、普段は出来ない体験をすることが出来ました。子どもだけでなく、子どもたちと向き合うことでリーダーとして共に成長することができました。



【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

・1/11(土)～1/12(日) 年始ウィンタープ

ログラムスタート

日光湯元わくわくスキーキャンプ@奥日光湯元温泉
万座旅館・日光湯元温泉スキー場

・1/11(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(クッキング)

・1/18(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・1/19(日) ワンデイスキー@エーデルワイススキー場

・1/25(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・1/25(土) ワンデイスキー@エーデルワイススキー場

ユースリーダーのつぶやき



①田中奈緒(ジジ)

②国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科

③神奈川県

④子供に関わることや、ボランティア活動に興味があったから

⑤初めて参加した6月の活動です。私自身とても緊張していましたが、活動をする中でどんどんメンバーが話しかけてきてくれた事が嬉しかったので、思い出に残っています。

⑥言語聴覚士

⑦いつも素敵な活動を行ってくださってありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



①山岡沙也(まめ)

②国際医療福祉大学 保険医療学部 言語聴覚学科

③長野県

④あゆ〜んに勧誘された

⑤野外炊飯 包丁を使ったことがない年少さんが包丁を使ったことに感動していた姿に嬉しかった

⑥言語聴覚士

⑦今後の活動では楽しませ、楽しませたいです。

お願い・編集後記

・会計より、後期の会費の納入をお願いします。東日本区への後期の会費を納めます。

東日本区の活動に協力・参加!

・年賀はがきの3等年賀切手を集めております。

- ・缶のプルトップを集めております。
- エルム福祉会の活動に協力！
- ・アルミ缶の収集。

1 月例会場所の地図

金の食彩

那須塩原市緑 2-1293-5

TEL 0287-53-7757

